

「命を守られている」

群馬県 高崎市立中室田小学校 4年 よしきわ よしひこ 吉澤 慶彦

六月十七日。この日は砂防ダムを見学する日です。ぼくたちは事前に砂防ダムについて勉強していたので、本物のダムがどんなものなのか、とても興味がわき、今日の見学がとても楽しみでした。

教室に「国土交通省」と書いてある服を着た人たちがやって来ました。あいさつをするとすぐに実験が始まりました。

まずはじめに木片を模型の沢に置きました。これは砂防ダムの代わりです。次に大量のビー玉を上から流していきます。ビー玉は洪水に例えたものです。木片はみごとにビー玉をキャッチしてくれました。小さな木片ですが十個以上のビー玉をせき止めることができたのです。この実験から、ぼくは砂防ダムの力と目的がはっきりわかりました。

続いて、DVDの視聴がありました。この中では、がけ崩れ・土石流・地滑りの様子が恐ろしさを感じさせました。

準備が整ったので、いよいよ本物の見学です。行き先は、榛名川砂防せきです。バスで移動している途中、小さな砂防ダムがいくつもあることに気づきました。大きさは五メートルぐらいですが、連続して造ってありました。小さいものでしたが、これも土砂を防ぐ役目をしているのだなと思いました。

榛名神社に着くと、参道を歩き出しました。途中から川に沿った道を歩くようになると、ザアアという音が大きくなりました。石もゴロゴロしていました。さらに進むともっと大きな音が聞こえてきました。

ここが榛名川砂防堰堤です。色は黒々としていて、高さは十五メートルぐらい、幅は五十メートルぐらいに見えました。しかし、説明を聞くと、もっと大きいことがわかり、驚いてしまいました。このダムの特長は、たくさんの石が積まれていることです。コンクリート作りではなかったため、激しい土石流が発生したら崩れてしまうのではないかと心配になりました。友達もそのことが気になっていたのか、すぐに「こわれたりしませんか」という安全性についての質問が出ました。

すると、造られてから六十年もたっているのに、土石流を防ぐ役目をしっかり果たしているという話を聞き、すごいなという気持ちに変わりました。造り方の説明を聞くと、貴重なコンクリートも使いながら、石を斜めの形に積み上げる工夫をして、丈夫なダムにしていることがわかりました。山の多い榛名地域にこのような砂防ダムを造ってくれてありがたいなと思いました。建設機械が少ない時に、このようなダムを人の力だけで造り上げるには、そうとうな苦労があったんだろうと思います。

最後に、滑川で河川工事をしたあとの様子を見に行きました。この川は、ぼくたちの学校の近くにあるのでよく知っています。でも、工事の目的は知りませんでした。

この川は石だらけです。川底も、横のかべも石でおおわれています。このような工事をしたのは、以前、この場所で大きな被害が出ていたからでした。この被害をなくすのが床固めという工事でした。ぼくは、水のはらんを防ぐために工事してくれたので、とても安心しました。

また、この工事には生き物のことまで考えた仕事がありました。それは、「魚道」を造ったことです。小さな魚道ではないので、費用もたくさんかかっていると思います。橋の上から滑川を見て、ぼくは、人も魚も安心してくらせるというのは、すごいことだと思いました。

今日の見学を通して、砂防ダムの役割とありがたさを知ることができました。また、環境を考えた工事の仕方があることにも気付くことができました。二ヶ所の見学でしたが、榛名地域を守ってくれる施設を見学できてよかったです。